長野県教育文化会議総合研究部会
2020年7月18日

記述式問題のゆくえ

～共通テスト「国語」の場合～

紅野謙介（日本大学文理学部）

1

2

3

紅野謙介
国語教育の危機
大学入学共通テストと新学習指導要領
CHIKUMA SHINSHO
ちくま新書
1354

紅野謙介
国語教育
混迷する改革
CHIKUMA SHINSHO
ちくま新書
1468

3

どうする？
どうなる？
これからの
「国語」教育
大学入学
共通テストと
新学習指導要領
をめぐる
12の提言
紅野謙介編
「戦後最大の改革」は、このままでは必ず失敗する。
この国のあらゆる教育と文化の要となる「国語」に今、何が起ころうとしているのか。
高校・大学・予備校の現役教師たちが問題点と具体策を総合的に論じる。
これからの国語・日本語にたずさわる全ての人のための一冊、緊急出版！
幻冬舎

中央公論
12
2019
DECEMBER
特集
国語の
大論争
「論理国語」と大学入試
谷川俊太郎〇詩「私語」
「広義の文学」の可能性／ロバート・キャンベル×紅野謙介
スポーツ界や一流企業が「言語技術」に飛びつく理由
田嶋幸三×三森ゆりか
辻仁成、片岡義男、黒田龍之助、金田一秀穂、伊藤氏貴
官邸官僚の研究／手嶋龍一×佐藤優
日韓クライシス
［安保］吉良佳奈×西野純也［経済］安倍誠
［歴史認識］江川紹子

4

経緯

- 2000年　大学審議会「大学入試の改善について」(答申)。センター試験や各大学の入学者選抜の改善を提起。
教育改革国民会議「教育改革国民会議報告――教育を変える17の提案」を提起。
- 2012年　文科省、「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」を発表。**センター試験改革**。
- 2013年　「教育再生実行会議」第四次提言「**高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について**」。
- 2014年　中央教育審議会、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」を提出。

「高等学校基礎学力テスト」の導入、センター試験の廃止、記述式試験の導入、英語の民間試験の活用などが提案される

5

- 2015年　下村文科相、「高大接続改革実行プラン」を発表。これに応じて、文科省で「**高大接続システム改革会議**」発足。
- 2016年　同会議が「学習指導要領」の改正や「高等学校基礎学力テスト」の導入、「大学入学希望者学力評価テスト」の導入などを提言。
- 2017年　大学入試センター、「大学入学共通テスト」記述式問題の<u>モデル問題例</u>を発表。文科省、「大学入学共通テスト実施方針」及び「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を発表。

提案：
- 「国語」と「数学」の記述式問題の導入。
- 採点における民間業者の活用。
- 地歴・公民、理科でも記述式問題の導入を計画。

6

- 2017年　大学入試センター、「大学入学共通テスト」試行調査（プレテスト）第1回の実施。
- 2018年　文科省、高等学校「学習指導要領」改正を告示。大学入試センター、「大学入学共通テスト」試行調査（プレテスト）第２回の実施。
- 2018年から2019年にかけて、さまざまな媒体を通して批判が集中。
- 2019年11月　文科省，2020年度大学入学共通テストにおける**英語民間試験活用の延期**を発表。
- 2019年12月　文科省，2020年度大学入学共通テストで導入予定だった**国語と数学の記述式問題について実施見送り**を表明。

7

記述式で何を目指していたのか

2004年の２つの提言

- 経団連が「21世紀を生き抜く次世代育成のための提言―「多様性」「競争」「評価」を基本にさらなる改革の推進を―」を発表。「志と心」「行動力」「知力」を強調し、**受験のための教育を批判**。
- 文化審議会答申「**これからの時代に求められる国語力について**」。冒頭の「はじめに」の最後に，「なお，答申の「国語教育」とは，学校教育における教科「国語」で扱う「国語科教育」をその中に含み込んだ**「国語（言葉）にかかわる教育の全体」，すなわち，学校，家庭，社会において行われる「国語の教育全般」を指すもの**である」というただし書きが付く。

8

記述式「国語」の何が問題だったか

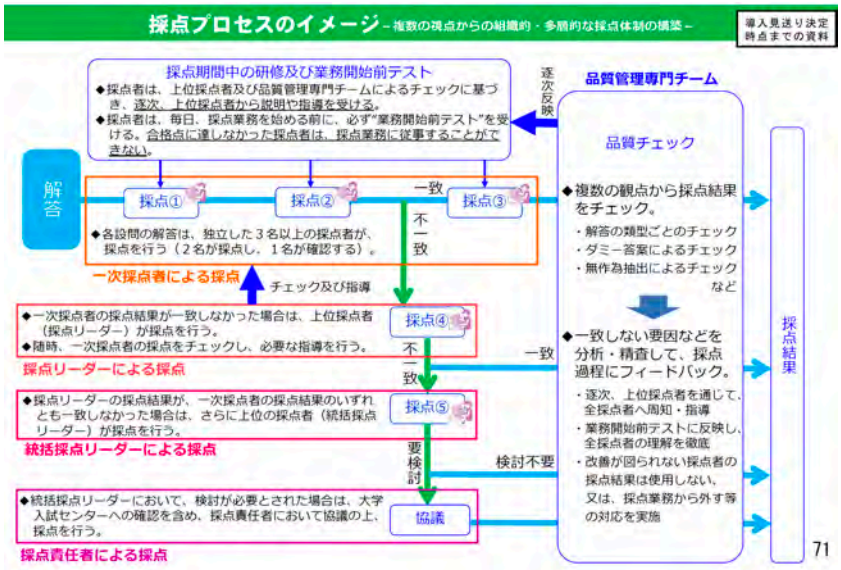
① 採点の公正及び自己採点の困難に対する疑問

② 採点業者及び方法に対する疑問

③ 必要性の根拠に対する疑問

④ サンプルやプレテストの問題内容に対する疑問

9



10

学力評価研究機構の説明（2019 年11月）

- **採点者の選抜**
  「採点者は、教員や講師等の経験者を含む、大学・大学院の学位取得者又は在籍者」　→ **こうした資格者に年度末の1月後半の20日間を割くことができるか。**
- **採点者の研修**
  「採点期間中は、毎日、業務開始前に必ずテストを受けさせ、合格点に達した採点者のみを採点業務に従事さる」
  →　**１万人、20日間で完了させるという条件と両立できるか。**
- **採点の正確性**
  「採点基準を基にした多様な解答を正しく評価できる採点マニュアル」　→　**事前のマニュアル作成による問題漏洩のリスク。**

11

国立大学の二次試験における国語、小論文、総合問題に関する募集人員の概算

導入見送り決定時点までの資料

国立大学の二次試験において、**国語、小論文、総合問題のいずれも課さない学部の募集人員は、全体の61.6%（49,487人/80,336人）**

（学部単位の募集人員数の合計）

	募集人員	国語			小論文		総合問題		国語、小論文、総合問題のいずれも課さない
		必須	選択	課さない	課す	課さない	課す	課さない	
前期	64,787	15,803	4,757	44,227	3,949	60,838	1,149	63,638	39,470
		24.4%	7.3%	68.3%	6.1%	93.9%	1.8%	98.2%	60.9%
後期	15,549	50	258	15,241	4,203	11,346	1,041	14,508	10,017
		0.3%	1.7%	98.0%	27.0%	73.0%	6.7%	93.3%	64.4%
全体	80,336	15,853	5,015	59,468	8,152	72,184	2,190	78,146	49,487
		19.7%	6.2%	74.0%	10.1%	89.9%	2.7%	97.3%	61.6%

※下段は割合

「国語」「小論文」「総合問題」に限定いた調査。他の教科の記述式を見ていない。

注1）「小論文」と「総合問題」について、選択科目となっている場合は、「小論文を課す」「総合問題を課す」として計上している。
注2）総合問題とは、複数教科を総合して学力を判断する総合的な問題を指す。

※各大学が発行した「平成28年度入学者選抜要項」を基に、文部科学省において作成　65

12

記述式問題の出題傾向

➡モデル問題例１

① 「街並み保存地区」の略図

② 城見市「街並み保存地区」**景観保護ガイドライン**のあらまし

③ 住民説明会から帰宅したかおるさんの父と姉の会話

④ ある会社による「街並み保存地区」の活性化に向けた提案書要旨

➡モデル問題例２

① **駐車場使用契約書**

② サユリさんと管理会社の値上げをめぐる交渉

③ 新たな管理会社との契約書抜粋

ガイドラインや契約書など、互いを規制するルールを読めているかどうかばかりが出題されている。実用文についての貧しい認識。

13

➡第１回プレテスト第1問

① **生徒会部活動規約**

② 生徒会執行部会の会話

③ 部活動に関する生徒会への主な要望

④ 市内五校の部活動の終了時間調査

⑤ 高校新聞「青高生の主張」の抜粋

➡第２回プレテスト第２問

① 「著作権のイロハ」と題されたポスター

② **「著作権法」**の抄録

③ 名和小太郎『著作権2.0』の一節

第2回プレテストではそれまでの実用文問題がマークシート式に切り替わった。

14

問題作成における複数の困難な条件

⑴　記述式問題において採点のぶれの少ない、かつ優れた設問を作成しなければならない。

⑵　文学的あるいは評論的文章ではなく、「実用的な文章」を素材文にしなければならない。

⑶　文章のみならず図表や画像など、種類の異なる複数の素材を組み合わせた問題でなければならない。

15

試験問題の作成という具体的な「実践」を考慮しない思考の危うさ

- 50万人を対象に⑴の記述式導入をはかるのは無謀。
- ⑵あるいは⑶を適切に、かつ確実に実現していくことの方が重要。
- ある程度の教員が訓練をつめば誰でもできるような作業内容にしなければ**持続可能**にはならない。
- 作成作業の「現場」、ふつうの人々が働く具体的な「実践」の場を想像できない**独善性**と**視野狭窄**。

16

新「学習指導要領」下の高校国語

- 必修科目
  国語総合（４単位）　→　現代の国語（２単位）
  言語文化（２単位）
- 選択科目
  現代文A（２単位）　→　論理国語（４単位）
  現代文B（４単位）　文学国語（４単位）
  古典A（２単位）　古典探究（４単位）
  古典B（４単位）
  国語表現（４単位）　国語表現（４単位）

17

日本学術会議からの批判

- 提言「高校国語教育の改善に向けて（2020.6.30）
  日本学術会議 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会

「細分化を進めるこの科目構成の在り方には問題があり、改善されるべき点がある。その改善方法を示すとともに、この指導要領のもとで行われる教科書編集、および教科書検定において留意すべき点を示し、合わせて不人気科目であることが解消されないことが予想される古典教育の改善について提案を行う」

http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t290-7.pdf

18

「論理国語」か「文学国語」か

- 提案：選択科目としては「文学国語」と「古典探究」を指定する。「論理国語」はその教科書を副読本とする。
- 理系クラスでも「古典探究」とする。理系に進んでも、その職場は日本語ネイティブだけでは構成されていないことになっているはず。
- 「古典」は、ふだん使っている日本語が歴史的な形成物であることを教えてくれる。同じ日本で、同じ日本語の系統にもかかわらず、理解困難な言語や文化が存在していたことを知らなければならない。自分たちの言語や文化がどのような成り立ちと歴史をもつかを知ったとき、他の言語や文化への関心が深まる。

19

「文学」と「論理」は対立概念ではない

- 「文」についての「学」である「文学」のなかに「論理」も位置づけられる。「論理国語」と言うかぎり、その「論理」は数学的「論理」ではない。「国語」すなわち言葉を用いた「論理」を指す。言葉による「論理」は、論理学を学ぶことを目標としていない。他者に情報を的確に伝え、その他者の感情や認識を揺さぶり、説得することを目標とする。つまり、そこには論理に修辞が重なっている。言語表現としての「論理」の学びを目指すのであれば、それは広義の「文学」に属す。

20

福岡伸一「ウイルスは撲滅できない」

短いので、できれば事前にお読み下さい。

- 『朝日新聞』2020年4月6日（https://digital.asahi.com/articles/ASN433CSLN3VUCVL033.html）
- 著者は分子生物学の科学者。この記事は評論・論説に分類される。新「学習指導要領」からすれば「論理国語」の文章。
- 実は理系の学者であっても、科学的な考えを人々に伝えようとすれば、言葉を通してしかできない。何を語っているか、そしてそのことを伝えるのにどんな言葉を使っているのか。言葉と文学表現をめぐるヒントがそこに隠されている。

21

ウイルスをどう捉えるか

- 生命を「自己複製を唯一無二の目的とするシステムである」と利己的遺伝子論的に定義すれば、自らのコピーを増やし続けるウイルスは、生命体である。
- 生命を「絶えず自らを壊しつつ、常に作り替えて、あやうい一回性のバランスの上にたつ動的なシステム」と定義する見方に立てば、ウイルスは生物とは呼べない。
- 「ウイルスは自己複製だけしている利己的な存在ではない。むしろウイルスは利他的な存在である。」

「生物と無生物のあいだに漂う奇妙な存在」

22

比喩とそのイメージの力

- 新型コロナ・ウイルス＝「目に見えないテロリスト」という比喩。しかし、ウイルスは「一方的に襲撃してくるのではない」。
- ウイルスが人体に入っていくとき：「宿主」である人間のたんぱく質はみずからウイルスのたんぱく質に働きかけて、いらっしゃいと招き入れる。
- ウイルスの起源を遡ると、進化の過程で高等生物の遺伝子が飛び出して生まれたと推測される。つまりウイルスは「家出人」。
- 「家出人」がさまよっているときに「宿主」が門戸を開いて、宿を貸すよと誘う。この比喩とそのイメージを通して、ウイルスと人間の関係が見えて来る。

23

ウイルスの「利他的」役割

- 親から子への遺伝情報の伝達は縦の垂直の関係。
- 「家出人」が「宿主」に影響を与えて変えていく遺伝情報は横の水平の関係。
- 自分のコピーを残して行くだけなら「利己的」だが、相手の遺伝情報に変更を加え、異なる環境にも適応できるようにしていくことでもある。「利他的」。
- ウイルスによって確かに亡くなる人がたくさん出ている。それは悲劇。しかし、ウイルスによって人類は種としての進化を重ねているということでもある。残酷である一方で、異なる条件で生きるための変化を受け容れる。

24

比喩の闘い

- 「テロリスト」という比喩に対する、「家出人」と「宿主」という比喩コンビが新たに提示される。
- 比喩は、異なるものを結びつけるレトリック。名づけの遠い親戚と言ってもいい。名づけや比喩のように、どのような言葉を選ぶかによって、聞き手や読者に「情報の交換と包摂」をもたらし、世界の見え方を変えることにつながっている。
- 科学的な論説も説得においてはレトリックを使う。

25

その比喩やイメージはどこから来るか

- 何かをべつの何かでたとえるとき，人は自分のもっているリソース，記憶のアーカイブから持ってくるしかない。これらの比喩を生み出したのも記憶のアーカイブのはず。
- 経験による記憶のアーカイブほど，鮮烈で強いものはない。しかし，一人の経験では狭く，限られる。固定観念の住み処になりやすい。
- そのときさまざまな表現を享受した記憶が役割を果たす。何を読み，どのような絵画を，音楽を，映画を受け容れてきたかがアーカイブの奥行きを左右する。文学はその重要な一角を形作るのではないか。

26

「家出人」と「宿主」をめぐる物語

- 夏目漱石『こころ』（1914年）
- 若い頃の「先生」＝故郷を捨てて東京へ出てきた「家出人」。「K」もまたさまよう「家出人」。この「家出人」を受け入れた「宿主」の家にお嬢さんがいた。
- 「宿主」となった「先生」は「K」の記憶を背負いつづける。「K」の自殺と，親友を裏切った「利己的」な自分の心を許すことができなくなる。「利他的」なものと「利己的」なものの葛藤が渦を巻く。

27

交差する「家出人」と「宿主」

- 物語の現在＝ひっそりと暮らす「先生」の前に大学生の「私」が現れる。
- 「先生」は自殺を決意し、「私」に遺書を送る。「私」は遺書をふところに，死の床にある父を置き去りにして，東京行きの列車に飛び乗る。「私」もまた「家出人」。
- 精神的な「宿主」であった「先生」は，「私」が現れたことによって起きた心の変化を語り，みずからの経験を「私」に伝える。「家出人」と「宿主」はこうして互いに交差しながら，魂の「進化」をとげる。
- 「宿主」の「先生」は自死する，そして遺書の言葉をかみしめながら，「私」の新たな居場所探しが始まる。

28

『教養』の重要性

- 「家出人」と「宿主」という比喩が，そうそう簡単に浮かんで来るとは思えない。
- しかし，私たちが物事を説明し，人々に分かりやすく伝えようとするとき，こうした比喩やイメージの働きを欠かすことはできない。
- 「教養」とはまさにその比喩やイメージの源泉にあたり，アーカイブを構成するもの。教養の深さとその泉から適切な言葉を汲み上げる力こそ、「国語」が培うべき力なのではないか。

29

終わり

質問・ご意見は、kohno@chs.nihon-u.ac.jpまで

30